

FJ型500馬力時代の幕が開く

西



スカイライン

RS-X2.4ツインターボ
トライアル

by 東大阪市 0729 (65) 6823

特注1000cc出しのマフラー
以外はほとんどノーマル。今
関西じゃこのR30と箱スカが
中古車市場で人気絶頂だ



追加インジェクター4本、ドでかいサージタンク……これだけ入ってもまだまだスペースはラクだし、エンジン本体もパワーに負けるようなことはない。これがFJ人気の秘密だ



シフトの原因はグローブボックスに上手に埋め込まれたメーターに。それとレカロのシートも



▲スパルタンに取りつけられたメーター類の中で、9000rpmからレッドのタコが印象的だ
▼195/50のP7にTRDのショックとスプリングで固められた足回り



▼ステンレスのタコ足にTD05タービンを2基マウント、吸気はソレックスの50φで、カムはターボ仕様としてはワイルドな304°を使うのだ



ショップに備え付けのシャシーダイナモを振り切っちゃたというこのRS。あいにく取材時はセッティングが出来てなかったけど、これで生駒あたりをギンギンに走らせてたら“松”はかたかった

FJの頭丈さとR30のエンジンルームの広さを最大限に利用したフルチューン仕様のスカイラインだ。
エンジンは東名のFJキットで2・4Lにスケールアップ。1・5kg/cm²以上のハイブリストをかけるために、ピストンも低圧縮タイプの特注品だ。これに、排気側にTD05のハウジングを使ったTD06タービンを2コ取り付ける。タイムラグを少なくするためのトリアルの必殺ワザだ。
キャブレションは、ECIを取り払ってセッティングの出し易いOERの50φがトリと取り付けられている。
さて、走りの方だが、まさにFJを真剣に見直させるほどにシャープでパワフル。最近ではクソ馬力のあるクルマはそう珍しくないが、これだけの高過給ターボで、これだけアクセラレーションに反応してくれるエンジンはそう珍しくない。ワインディングを走れるトラッグスヘシヤルだ。(レポート●鈴木直也)

6.9Lにツインターボ、800psとくれば、そのゴージャスは“松”つきやない!



東